

第1回 新宿区学校選択制度検討協議会 議事 要旨

◆日時 平成28年5月30日（月） 14時00分から16時00分

◆場所 新宿区役所本庁舎6階 第四委員会室

◆出席者

・酒井教育長

・委員：浅見委員、芦野委員、飯島委員、片山委員、勝野委員（※）、佐藤委員、
沢柳委員、千葉委員、中村委員、八田委員、東谷委員、堀江委員、
邑上委員（※）、山田委員

※ 第1回新宿区学校選択制度検討協議会において、委員の互選により、勝野委員が会長に、邑上委員が副会長に決定。

・事務局：木城教育調整課長、横溝教育指導課長、柴地域家庭教育係長（教育支援課長代理）、山本学校運営課長、関原子ども家庭課長、鈴木学校運営支援係長、田上学校適正配置・運営支援主査、作本主事、宇井主事

◆欠席者

・事務局：高橋教育支援課長

◆開会、委嘱

1 委員委嘱

2 教育長挨拶

【新宿区が目指す教育と取組の方向】

・新宿区教育委員会では、平成21年3月に、10年間に渡って、目指す教育と取組みの方向を示した教育ビジョンを策定し、これに基づき現在も様々な施策を展開している。教育ビジョンでは、新宿の子どもたちが「自らを律し互いを認め」、「社会の形成に進んで参画する」とともに「自ら学び、考え、行動する」ことができる教育を推進し、「学校・家庭・地域との緊密な連携のもとに、豊かな文化と活力に満ちた地域社会の形成を目指す」ことを教育目標に掲げている。

【教育ビジョン策定後の教育環境の更なる変化】

・平成23年4月にいわゆる義務標準法が改正されたことに伴って新宿区も平成24年度から小学校1年生の35人学級編制を実施する運びとなったことや、全国で少子化が叫ばれる中であっても、新宿区の未就学児（0～5歳）は近年増加しているという状況がある。

・平成24年には、学校選択制度や適正規模及び適正配置等に関して答申を受け、学校選択制度については、小学校において選択出来ない学校の指定を行った上で維持していくなどの基本的な方針を定めた。

・小学校において選択できないものとして指定した学校数も年々増加しつつあり、

今後、地区によっては、隣接する学校が全て指定を受けて、実質、他の選択肢がない学校が生じる可能性も予想されている。

・学校選択制度については毎年保護者アンケートを行っており、その結果、「学校の特色を考え、選択できることは良い」とする意見も多数ある一方、「母校や地域と、子どもたちの繋がりが薄れた」とする方々がいることも認識している。

・また、子どもの安全確保を目的に、就学児童・生徒に対する安全・安心のための施策について、充実を図っている。

【学校選択制度検討協議会の設置】

・教育環境の更なる変化を踏まえ、この教育目標の実現を図るため、「学校選択制度」に関する今後のあり方について検証を行い、方向性を示す必要があるとの判断のもと、この学校選択制度検討協議会を設置することとした。

・各委員におかれましては、様々な角度や異なる立場から本協議会において忌憚のないご意見と活発な審議をお願いしたい。

【今後について】

・今後については、本協議会での答申をもとに、パブリックコメント等も行いながら方針を固め、平成30年度での実施を計画している。

3 会長及び副会長の選出について

委員の互選により、勝野委員が会長に、邑上委員が副会長に決定

4 学校選択制度検討協議会への諮問

5 議事

(1) 学校選択制度のしくみと利用状況等について

「資料2」により説明

(2) 協議会の今後の進め方等について

「資料3」により説明

平成30年4月の入学手続きに反映できるよう、本協議会として、概ね11月末まで検討を進め、答申を取りまとめることを確認した。

(3) 当協議会にあたって各委員から

・保護者として、数年前の上の子の中学入学の際は同級生が学校選択制度を利用していたが、下の子のときは、利用が少なくなった実感があった。

・PTA活動を通じ、地域の方と交流する中で、制度のメリット・デメリットを事務局の用意した資料を参考にしつつ、検証していきたい。

・自然や地域の関わりを大切にする観点から、保育園が子どもたちと近隣の散歩を行う際は、近隣や地域の方の声かけがあり、地域に見守られていると感じる。

・保護者から、地域の学校に進学すると保育園時代から繋がりのある先生や、地域の方に見守られ、安心だという話を聞くことがある。

・教員として卒園した子どもの成長する姿を見守っていけることを幸せと感じる。学校と地域とのつながりを大事にする観点で、議論を進めていければと考える。

- ・青少年育成委員やP T Aでも長く活動しているが、活動開始時からの信念として、「学校で学び、家庭で育ち、地域で成長する」ということが大事だと考えている。
- ・近年、時代とともに子どもたちの環境や保護者の考えが変わってきたと感じている。
- ・学んでいる子どもたちのため、より良い環境整備に向け、検討できればと考えている。
- ・今の季節になると、学校案内冊子が届き、保護者同士で学校選択を話し合う時期が近づいてきたと感じる。
- ・自分の子どもも隣接区域から通学しており、様々な角度から意見交換し、自身も勉強していきたい。
- ・区の学校選択制度が始まった際に中学に着任したが、中学では、全学区から選択が可能で、素晴らしい制度と感じるとともに、課題も出てきていると感じている。
- ・中学校長会でも様々な意見があり、各校長の意見も吸い上げ、議論を進めていければと考えている。
- ・自分の子どもも、大通りを渡らせたくなかったこと、父親の出身校が選択校であったことから学校を選択した。
- ・実際に学校選択制度を利用した立場からも、意見ができればと考えている。
- ・私立幼稚園長の目線で見ると、近年、子育て環境が変わってきている。
- ・「より良い教育」「子どもにとってより良い未来」や「安心・安全」という観点から、意見交換していければと考える。
- ・小・中P T A、青少年育成委員など、長く地域活動に携わった中、近年、地域の繋がりが希薄化していると感じる。
- ・家庭の教育力が、ある部分は高まったが、ある部分は低くなっていると感じ、地域でも、子どもたちの豊かな学びをどう高めていけるか考える必要があるのではと感じている。
- ・今年から全校が「地域協働学校」となった。この様な学校と地域で子どもたちを支える流れの中、子どもたちのためにいい結果が出るよう、今後の検討をしていきたい。
- ・学校選択制度が始まって、学校の近所の子が違う学校に行ったり、教室が足りないのに選ばれる学校があったりと矛盾も感じていた。
- ・「開かれた学校づくり」「特色ある学校の推進」という意味で、学校も選ばれる時代になったと感じた。
- ・賛成・反対それぞれで意見もあろうが、これまでの制度の中身を検証するべき。
- ・子どもが私立小に通っているが、私立にした理由の一つに区域の公立の児童数が少ないということがあった。
- ・学校選択制度を含め、入学校を決めることは、保護者にも大きな影響があり、保護者の意見として、議論出来たらと考えている。
- ・「選択をする保護者がいる幼稚園」「選択される小学校」の長の二つの立場から、社会の変化や震災の発生、地域協働学校など、区の教育環境の変化の中、学校選択制度について考えることは大事だと思う。
- ・制度導入の背景や、これまでの成果や課題もある中、実際、制度を利用した方に話を伺う機会もあったが、通学路の危険や親の出身校など様々な理由で、選択していることは感じる。
- ・安心・安全の観点、震災の発生、地域協働学校など、時代と共に学校と地域の繋がりも変わりつつある。

- ・近年、嬉しいことに子どもの数も増えており、区民に公平な制度になるかということも大事にし、議論を進めたい。
- ・30年4月反映に向け、来春には周知ができるよう、議論を進めつつ、子どもたちや保護者にとっていい仕組みになるよう議論をしたい。
- ・小学校・中学校ともに、それぞれの立場で、誠実に、子どもを第一に考えた意見交換ができたと思う。
- ・どんな制度にもメリット・デメリットがある中で、一定の期間が経ったら、もう一度見直すことは必要。
- ・東日本大震災の折、子どもたちを安心させ送り帰した中で、学校選択制度を使った、比較的遠距離通学の児童の保護者から、何故最後まで送ってくれなかったか苦情を受けたことがあるが、今となつては、保護者の、子どもの安全への思いを感じる。
- ・キーワードは地域で、子どもが地域の人と関わるのが大切ではないか。
- ・新宿区の学校は、「開かれた学校づくり」「特色ある学校の推進」を目指し、どの学校もとても良い学校と感じる。
- ・親の目線で考えれば、子どもの安心・安全が最も大切と実感しており、区を挙げて子どもを見守ることを大事に、議論を進めていければと考えている。
- ・子どもたちが目の前にいるかのような意見交換ができた。
- ・制度として公平・平等ということが大事であるとともに、子どもたちにとって最善の制度を考えていきたい。

(4) 保護者などへのアンケートの実施について

【「資料2」により説明したのち、各委員からの質問】

- ・委員1：保護者などへのアンケートについてだが、回答形式（選択肢か記述式か等）によって結果に影響が出ると思うので、事務局（案）を提示していただきたい。
- ・会長：回答方法については、事務局から案の提示を受けて委員の間で議論したい。
- ・事務局：ある程度の数の項目は、集計結果をパーセンテージで表したいので、選択肢で回答いただく形式にしたいと考えている。
- ・委員1：選択肢の文言や、選択肢数が結果に影響するので、どの様な内容になるか示していただきたい。（アンケート実施対象のひとつである）PTA会長（副会長）は学校によって人数が違うので、全体のバランスに配慮してほしい。（各学校の意見がバランス良く反映されるよう）一票の重み等に配慮してほしい
- ・事務局：アンケートの選択肢の内容や実施対象の具体案は、今後お示しする。
- ・委員1：過去に実施した類似のアンケート結果は今回利用するのか。利用しない場合は、その理由を教えてください
- ・事務局：過去のアンケートの利用例として、平成22年度実施のアンケートが、平成24年度の「新宿区立小・中学校の通学区域、学校選択制度、適正規模及び適正配置の基本方針」作成にあたっての答申を行った、新宿区教育環境検討協議会において利用したことがある。しかし、今回は教育環境の変化に伴う検討会であり、過去の意見よりも最新の意見を踏まえたものとしたいことから、過去のアンケートは利用しない考えである。

一票の重みについては、アンケートはカテゴリごとの集計を行う予定であり、

母数の違いで影響を受ける内容とする予定はない。

・委員1：PTA会長（副会長）へのアンケートだが、一校各職につき一票なのか、会長（副会長）一人につき一票なのかでは、学校間のバランスが崩れるのではないか。

・会長 その件については、次回の会で詳細について議論することとしたい。

・委員2：保護者などへのアンケートについてだが、設問のうち「地域との一層の繋がりが求められるのと同時に・・・」という書き出しのものがある。“地域との一層の繋がりが求められる”という書き出しは、誘導的な文言なので、一般的かつ客観的な回答ができる様、例えば“地域との繋がりの観点から”等の文言に修正した方が望ましい。

・事務局：文言については中立的な回答ができるように調整する。

・委員3：アンケートの案はきめ細やかにできていると感じた。アンケートの内容は多岐にわたり、多様な立場の方にバランスよく意見を聞くことができる内容で有意義だと考える。このアンケートを集計するには、労力があることが予想されるが、集計結果により幅広い方の意見を踏まえ、子ども達にとってより良い制度について考えていければ良いと思う。

・会長：アンケートについて、活発にご意見をいただくことで、内容が深まり充実すると考える。今日、この場でアンケートの全てを確認いただくことは難しいので、資料を持ち帰っていただき、追加のご意見がある場合は、事務局あてに1週間以内にメールで送って頂くという方法でお願いしたい。

(5) その他

ア 次回日程等について

今回は、6月21日（火）14時から第二委員会室において開催することとし、各委員には追って通知で連絡することとなった。今回は具体的なアンケート案を提示させていただいたので、またご審議いただくことで確認した。

イ 「資料2」小・中学校児童生徒数についての質問

・委員1：今回のテーマと関係あるかわからないが、教えて頂きたい。小学校では児童数が増えているが、中学校では生徒数が減っている。これは中学校の方が私立に行く子が増えるためだと思われるが、その理解で宜しいか。また、小学校の学校選択制において選択できない学校が増えているのはなぜか。

・事務局：トレンドとして、中学校入学時より国私立中学校へ進学するお子さんが多いということがある。また、小学校の学校選択制において選択できない学校が増える理由は、エリア内の児童数の増加や学校施設のキャパシティも影響している。

・会長：小学生と中学生のトレンドの違いは9年間の単位でずれて現れると考える。小学校児童数が増えているのは平成25年以降からなので、この傾向が6年間ずれて現れると考えれば、中学校も今後は相応に増えていくとみて良いと思う。

以上